



巖 神 青

会長就任挨拶



第三十三代会長

田 村 寛 仁

先づ以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますとともに、来たる令和十五年に執り行われる第六十三回式年遷宮におかれまして、もいよいよ山口祭、木本祭が執り行われ恙なく進められておられますこと誠に慶賀に存じ上げます。

常日頃より岩手県神社庁様をはじめ、先輩諸兄姉並びに

係各位におかれましては岩手県神道青年会に対し、多大なるご指導とご鞭撻を賜っております事に心より御礼申し上げます。

去る令和六年十二月二日、臨時総会に於きまして、会員の皆様からのご承認を賜り、第三十二代会長の重責を担うこととなりました。

昭和二十四年創立以来、七十六年という長きに亘り先輩諸賢が紡いでこられた志と歴史、伝統の重みに身が引き締まる思いでございます。元々

浅学菲才の身ではございますが、会務に全力で取り組み、会員の皆様と共に一丸となつて様々な活動に邁進し、斯界の興隆に努めて参る所存です。さて、長く続いた感染症は、

ひとまず落ち着いたかのように思いますが、未だ斯界のみならず、社会へも大きな影響を残したままです。祭礼を始めとした行事も、従来の形に戻りつつあるとはいえ、一度

希薄になった他者とのつながりを結びなおすことは簡単ではなく、なかなか以前の形に戻すことが難しいというのが実情のように思われます。

古くは神社や伝統行事を通じて人々が結びつき、地域社会が形作られておりました、人と人とのつながりが希薄になりつつある現代において地域のつながりを強くし、伝統行事ひいては地域社会を存続させるための活動が求められると感じています。

また、国内外の情勢も不安定と言わざるを得ない中、本年は大東亜戦争終結より八十年を迎えます。国のため、そして家族の為に自らの命を賭して出征された数多の方々の思いと苦難、戦地で散華された英霊たち、国柄を守り、焼け野原となった国土の復興に尽力され、更には平和を維持された先人たちの努力、戦火に見舞われることなく平和を享受しておりますのは、数多の

努力のお蔭であるという事を、我々青年神職だけでなく、多くの人々にも見つめなおす機会とすべく、靖國神社、護国神社への参拝、各種研修はもとより、対外的な周知活動も進めて参りたく存じます。

令和六年元日に発災した「令和六年能登半島地震」は被災地の道路状況など、様々な点で復興支援活動を思うように展開することが出来ず、忸怩たる思いを抱いています。

そのような中、令和六年五月に先遣隊として輪島市にて被災地支援活動をさせていただきました。その際には岩手県神社庁様のご支援を頂きましたこと改めて感謝申し上げます。平成二十三年の東日本大震災の発災直後、まだまだ余震も頻発する中、一番に支援の手を差し伸べてくれたのは北陸の青年神職の皆様であつたと伺っております。そして、全国各地からの手厚いご支援を賜ったことに対する感

謝とそのご恩に報いたいという思いは、今なお強く会員一同の中に根付いています。県内においても、ようやく震災から立ち直りつつあった大船渡市を山林火災という災禍が襲いました。簡単ではない復興の道を歩み進める被災地の方々に対し、祈りだけではなく活動を通していよいよ実践に努めて参りたく存じます。何事も守り伝える為には、行動が不可欠であります。その先端を担うべきは我々青年神職であり、会員一同研鑽を積み、常に課題・問題を見直し、我々にできることは何かを考え、祈りと共に行動に移す「斯界の尖兵」として会務に力を尽くす所存です。先輩諸賢の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。会長就任のご挨拶と致します。

田村会長長期新体制決定(令和七・八年度)

会長	紫 波	田村 寛仁	地区委員	盛岡市	西 館	徳史
副会長	江 刺	阿部 敏宗	紫 波	吉田 豊		
	北上市和賀郡菊池	祥隆	花 卷	小田島崇道		
	久 慈	新里 智紀	北上市和賀郡奥州	伊勢 昂矢		
常任委員	北上市和賀郡伊藤しずか			荒澤 雄翔		
	西 磐井	小野 宏之	西 磐井	千田 和典		
	気 仙	熊谷 典昭	東 磐井	高橋 徳東		
	上 閉伊	佐々木浩明	気 仙	佐藤 史大		
	上 閉伊	多田 明訓	上 閉伊	山本 雄麻		
	宮古市下閉伊郡西館	眞澄	宮古市下閉伊郡富田	神澤 卓		
常任・地区委員	九戸郡	工藤 慎一	宮古市下閉伊郡二戸	奥山 智行		
顧問	盛岡市	谷藤 大典	事務局次長	稲田 典英		
監事	盛岡市	藤原 和修	盛岡市	鈴木 翔太郎		
	盛岡市	長谷川 悠	宮古市下閉伊郡上澤	山根 達大		
			西 館	澄実		

会長退任挨拶



第三十二代会長

谷 藤 大 典

先づ以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますとともに、神宮におかれましても諸祭恙なく御斎行の由を承り、慶賀に存じ上げます。

過日「岩手県神道青年会創立七十五周年記念式典」に際しましては岩手県神社庁庁長坂本広行様、当会第十六代会長長谷川瑞彦様をはじめと致します、当会歴代会長並びに県内神職の皆様、神道青年全国協議会会長 大鳥居良人様をはじめと致します、全国役員の皆様、そして東北六県神道青年協議会

をはじめ各地区の青年神職の皆様にご臨席を賜りましたこと、篤く御礼を申し上げます。大きな喜びの一方、先日来県気仙支部における山林火災は大きな被害をもたらしました。神社への大きな被害はないものの地域には大きな爪痕を残しております。

顧みますれば 当会は昭和二十四年三月、先の大東亜戦争の敗戦後、国土と国民は惨憺たる打撃をうけ、その後の占領政策により人心の荒廃も著しい最中先輩諸賢が国家再興と皇統護持の決意のもと優れた叡智と篤い情熱を結集して創立されました。以来斯界の尖兵として国民運動・諸活動を数々展開してまいりました。本来は昨年三月が七十五周年の節目であり、記念式典を予定しておりましたが、案内を目前に控えた元日の「令和六年能登半島地震」をうけ、協議の末、創立七十五周年式典の延期を決定しました。十四年前に東日本大震災を

経験した当県青年神職として被災した仲間達の心境に思いを致すとき、とても案内をお送りするということは出来ないという結論に至った次第であります。同時に今こそ創立以来の志のもと、一刻も早い現地で支援活動を決意し、様々な事情・制約がございましたが、昨年五月と十一月に石川県輪島市の社会福祉協議会のボランティア枠において、活動を展開致しました。とくに十一月の活動では富山県神道青年会の皆様とも共に汗をながし親しく誼を結ぶことが出来ました。輪島への出発前先輩神職のひとりから、十四年前、石川神青が東日本大震災後すぐに雪道のなか、トラック一杯にガソリンを積んで駆けつけて戴いた話を伺いました。その上で臨んだ往復一、六〇〇キロメートルの旅路は、私自身、今でも忘れることが出来ません。

この五年を振り返るとき、新型コロナウイルスの感染爆発により日

常が一変、暗い閉塞した日々が始まったことは今更申し上げるまでもありません。当会においても事業の中止決定がいつしか活動になりかけ、ひたすら無念のときを過ごしました。

そんなとき新たなころみとして、教職兼業の青年会員を導入とした公立中学校における「装束着装体験講義」を実施しました。これは社会科歴史の平安時代の衣・食・住について、青年神職が教壇に立ち講義し中でも衣に焦点をあて、会員各神社の装束を用いて解説、実際に着装を体験してもらう活動です。令和三年十一月より本年までに県内公立中学校七校受講生徒約七〇〇名の実績は大きな自信となりました。

また神道政治連盟岩手県本部青年隊においては、歴代隊長をはじめ先輩隊員から現在に至る活動が認められ、昨年三月に自由民主党青年局より表彰の栄を賜りました。あらためて先輩諸兄姉のこれまでの御労

苦に深く敬意を表する次第です。

その他受け継いできております例年の活動においても昨年五月より順次実施し今日に至っている次第であります。多くの事業は先輩から受け継ぎながらも、その時代に合わせ改善を加え実施し、今日に至っておりますが、それは単に事業を行うことが目的ではなく、その志を受け継ぎ、次世代に伝えていくことが要であります。我々岩手県神道青年会々員一同は、これからも各々研鑽を積み、常に課題・問題に対し当事者意識をもち、実践につとめて、愚直に青年神職「尖兵」としての在り方と向き合っており、ますますことを御誓い申し上げますとともに、皆様には今後とも変わらぬ御指導御鞭撻を賜ります様お願いを申し上げます。甚だ簡単ではありますがが会長退任のご挨拶と致します。

岩手県神道青年会 記念事業 創立七十五周年

当会の創立七十五周年を迎えるにあたり、令和五年七月創立七十五周年実行委員会を組織し、「不易流行」を主題に掲げ、記念事業を執行した・創立七十五周年奉告祭

令和六年五月十六日、定例総会に先立ち、会長以下八名の会員の奉仕により岩手県神社庁神殿に於いて、創立七十五周年奉告祭を執行。創立の篤い志に思いを馳せ、受け継いでこられた先輩方への感謝を申し上げるとともに、岩手県神道青年会として祈りの務めを決して忘れることなく、世のため人のために精一杯取り組むことを誓った。

・記念事業

令和五年秋、岩手県内の宮司様はじめ、神職の皆様にご協力を仰ぎ、県内一〇三社からの御朱印を提供いただき、会員が展示パネルを制作、令

和六年二月十一日、岩手県神社庁のご協力のもと、岩手県公会堂で開催された「建国記念の日岩手県民奉祝大会」に於いて「第一回岩手県神社御朱印展」を開催、同年八月二十三日花巻市渡温泉での「岩手県神社関係者大会」に於いて第二回、本年の建国記念日にも岩手県公会堂での「岩手県奉祝大会」に於いて第三回の御朱印展を開催した。

この事業については、継続事業として、対外的な開催を計画している。

今後、展示内容の拡大と、神社検索サイトの活用も視野に入れ開催を進める予定。



・記念式典並祝賀会を開催
令和七年二月二十七日、盛岡八幡宮参集殿に於いて、創立七十五周年記念式典を開催し、岩手県神社庁坂本庁長様、神道青年全国協議会大島居会長様をはじめ、全国より多くの方々のご臨席を賜り、記念式典を開催した。



式典後同会場にて、記念祝賀会を開催し、平賀参事様自らがご出演により、「上根子神楽」をご披露いただいた。

また、谷藤会長が所属する、「門さんさ踊り保存会」もご披露いただき、大いに盛り上がりを見せた。



当初、令和六年三月に記念式典の開催が予定されていたが、一年間の延期を経ての開催となった。記念事業を進めるにあたり、ご理解ご協力を賜りました先輩方に心より感謝申し上げます。



岩手県神道青年会
創立七十五周年記念事業
御協賛者御芳名

岩手県神社庁庁長	坂本 広行 様	(株)秋江 代表取締役	秋江 弘一 様
盛岡市支部長	三澤 弘高 様	(名)吾妻嶺酒造店	蔵元 佐藤 元 様
岩手郡支部長	高橋 数馬 様	(株)阿部 取締役社長	阿部 英勝 様
紫波支部長	八重嶋 雄光 様	(株)井筒授与品店	代表取締役社長 國政 典昭 様
花巻支部長	稲田 典之 様	(株)井筒装束店	代表取締役社長 佐織 鉄郎 様
北上市和賀郡支部長	伊勢 義人 様	(株)神路社 東日本営業所	大平 佳樹 様
奥州支部長	山下 幸亀 様	京都奉製(株)	足田 聡 様
江刺支部長	及川 幸一 様	グリーン産商(株)	(有)桜井 様
西磐井支部長	佐藤 一伯 様	(株)長谷川製作所	代表取締役 長谷川 義貢 様
東磐井支部長	都澤 宏典 様	(有)藤村仏具本店 様	(有)三澤印刷 代表取締役 三澤 弘高 様
気仙支部長	長谷川 瑞彦 様	(株)湊 様	上記の他多数のお祝いを頂きました。
上閉伊支部長	多田 頼申 様	衷心より御礼申し上げます。	
久慈支部長	新里 明彦 様		
二戸支部長	戸田 昇 様		
第十二代会長	荒木 眞幸 様		
第十六代会長	長谷川 瑞彦 様		
第十七代会長	田村 勝則 様		
第十八代会長	稲田 典之 様		
第十九代会長	西舘 史穂 様		
第二十代会長	坂本 広行 様		
第二十一代会長	新里 明彦 様		
第二十二代会長	瀬川 一郎 様		
第二十三代会長	荒木 道明 様		
第二十四代会長	山下 道明 様		
第二十五代会長	吉田 浩明 様		
第二十六代会長	菅原 政憲 様		
第二十七代会長	高橋 数馬 様		
第二十八代会長	藤原 大修 様		
第三十代会長			

東日本震災物故者慰霊祭
並びに復興祈願祭

令和七年三月十一日、東北六
県神道青年協議会は「東日本大
震災物故者慰霊祭並びに復興
祈願祭」を岩手県宮古市の宮古
市魚市場で斎行した。



同会では平成二十六年以降
毎年、物故者慰霊祭をおこなっ
てきたが、発災十年目を迎えた
令和三年以降は隔年に変更。十
四年目となる今回は、岩手県神
道青年会が主管し、東北六県神
道青年会五十五人をはじめ、来
賓として岩手県神社庁関係者
や神道青年全国協議会役員・歴
代会長、東北六県神青協顧問な

ど四十人、また地元の漁港関係者や一般の人などが参集した。午後二時四十分、斎主以下祭員が魚市場内に舗設した斎場へと参進。地震発生時刻である二時四十六分にあわせて、震災で亡くなられた方々に黙禱を捧げた。



大祓詞奏上、修祓、招霊、献饌に続いて斎主が祭詞を奏上。慰霊の誠を捧げ災害からの復興を祈る「光舞」を岩手県神道青年会会員が伶人、青森県神道青年会会員が舞人を務めて奉奏した。

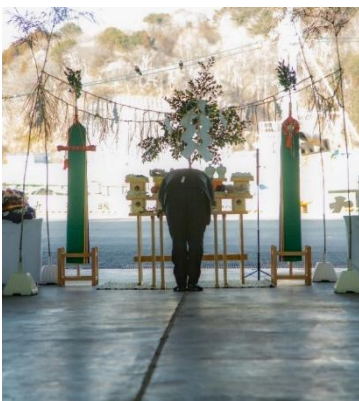


次に、地元には伝わる郷土芸能「黒森神楽」（国指定重要無形民俗文化財）の奉納があり、黒森神楽保存会が「権現様」と呼ばれる獅子頭を奉じて演舞。その後、斎主をはじめ岩手県神社庁の坂本広行庁長、神道青年全国協議会会長、宮古漁業協同組合の代表理事組合長らが玉串を奉り拝礼した。

祭典終了後には、主催者を代表して佐山崇会長が挨拶し「会場となった宮古市では、震災で死者・行方不明者五百人以上という被害があった。宮古市をはじめ未だ行方の分からない

方々が一日でも早く家族のもとに帰られることを祈りつつ、御霊の平安を祈念した」と述べ、「神職の本分」として「祈ること」の重要性に触れつつ「今後とも震災を風化させることのないよう、祈り続けていきたい」と固い決意を述べた。

また、来賓の坂本庁長、神道青年全国協議会会長なども挨拶。さまざまな思いが語られるなか、十四年前の景色やその後の復興状況についての所感、また今後について「地元の住民や亡くなった御霊に寄り添いながら、慰霊の誠を捧げ、復興を願い続けて次世代に繋げていくことが重要」といった言葉もあった。



県新政連青年隊 自民党本部より表彰

令和六年六月十六日、青年隊の自民党本部からの団体表彰受賞に際し、自民党岩手県支部連合会青年局の皆様が祝賀会を催していただき坂本庁長をはじめ神社関係者、谷藤会長以下五名の会員が出席した。祝賀会では県連会長の藤原議員（当時）より祝辞を頂戴し、表彰状が手渡された。その後の意見交換会では、多くの県連青年局の皆様と懇親を深めながら活発な意見交換が行われ、盛会裏に祝賀会が納められた。

盛岡少年刑務所並 盛岡少年院収獲感謝祭



岩手県神社庁を通じ教誨活動の一環として依頼を受け、盛岡少年刑務所、盛岡少年院の収穫感謝祭を奉仕した。

・盛岡少年刑務所

令和五年十月二十八日、谷藤会長以下三名の奉仕により執行職員二名、受刑者三名が参列、三澤先生による教誨が説かれた。

また、令和六年十月二十六

日、谷藤会長以下三名の奉仕により執行。担当職員二名、受刑者二名が参列、一條先生による教誨が説かれた。

・盛岡少年院

令和五年十一月二十九日(水)谷藤会長以下三名の奉仕により執行。参列者は担当職員二名、受刑者三名、祭儀奉仕の後、三澤先生による教誨が説かれた。

また、令和六年十月二十六日(土)盛岡少年刑務所の収穫感謝祭を谷藤会長以下三名の奉仕により執行した。参列者は担当職員二名、受刑者二名、祭儀奉仕の後、一條先生による教誨が説かれた。

第五回平安装束 着装体験授業

令和六年二月十三日、奥州

市立前沢中学校一学年を対象に、座学だけでは得られない平安時代の風俗への理解を深めるため、装束の着装体験授業が行われた。当会では、装束体験を通じて神社への興味関心を得られることを期待し、授業に協力している。本年は岩手県立前沢中学校で授業協力を行った。

体験前に資料集や板書などを用いて装束の形、着装の手順などを説明、実際に着装の体験となった。学生たちは初めてながらも会員の手助けを受けながら、互いに着装させあった。衣冠や狩衣、水干、巫女装束など普段身に着けることのない装束に身を包み、教科書や昔話で目にする姿を楽しみつつ、洋服との違いや、着装する事の難しさ、身に着けて生活することの大変さに理解を深めていた。

令和七年度 定時総会開催

議事

- 1、令和六年度会務報告の件
- 2、令和六年度収支決算の件
- 3、役員改選の件
- 4、令和七年度活動方針(案)の件
- 5、令和七年度予算(案)の件

令和七年度定時総会は五月十七日(月)午後四時三十分より神社庁を会場に、坂本庁長を来賓に迎え開催された。

冒頭、坂本庁長より、斯界を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、活発な会議と清新な心を以て斯界の尖兵として失敗を恐れず取り組むこと、新たな取り組みに挑戦し続けていくことを期待する旨ご祝辞を賜った。



平安装束体験授業 全国表彰

令和七年四月二十二日、神社本庁にて開催された神道青年全国協議会定例総会において「教化事業賞」を受賞しました。



坂本庁長より激励賜る

議事は、伊藤地区委員が議長に選出され進行。令和六年度会務報告、収支決算について承認の後、新執行部に体制が変わり新役員について田村会長より指名、直ちに承認となった。令和七年度活動方針、予算案についても原案の通り可決された。総会後は場所を移し懇親会が開催され坂本庁長を来賓に迎え会員同士の懇親を深めた。

第十一回 親子禊練成会開催

令和六年八月十七日、紫波町志賀理和氣神社を会場に第十一回親子禊練成会が開催され、神職子弟をはじめ子供たちが禊を経験した。禊にあたっては地元消防団の協力を得て、防火水槽には境内で縁日やレクをして解散となった。感染症の影響により長らく開催できずにいた行事であったが、再開にこぎつけることができた。



活動報告 自 令和四年三月
至 令和五年四月

- 四月 岩手県神社庁神職例祭参列
(岩手県神社庁神職)
- 四月 令和四年東北六県神道青年協議会
第六回役員会
(山形県神社庁※リモート併設)
- 四月 第四回役員会(リモート形式)
- 四月 神道青年全国協議会第七十三回定
例総会(神社本庁※リモート併設)
- 四月 岩手護国神社春季慰霊大祭助勢
- 五月 令和四年東北六県神道青年協議会
第七回役員会(リモート形式)
- 五月 沖繩本土復帰五十周年記念 国土
平安祈願祭(岩手県神社庁神職)
- 五月 令和四年度定時総会(岩手県神社庁)
- 五月 沖繩本土復帰五十周年記念
国土平安祈願祭(各奉務神社)
- 五月 神青協「デジタル社会における神社の在
り方を学ぶ」ウェブ研修会(リモート形式)
- 六月 祭祀舞内覧会参加(小野照崎神社)
- 六月 事業援助金巡回(上閉伊支部)
- 六月 第六回役員会(横山八幡宮)
- 七月 神青協「デジタル社会における神社の在
り方を学ぶ」ウェブ研修会(リモート形式)
- 七月 元岩手県神社庁長荒神社名誉宮司
西館勲氏 葬場祭奉仕
(JJA山田通夜会館)
- 七月 令和四年東北六県神道青年協議会
禊練成会
(福島県いわき市「いわい藤間ホテル」)
令和四年東北六県神道青年協議会
第八回役員会
(福島県いわき市「いわい藤間ホテル」)
七月 事業援助金巡回(北上和賀郡支部、
奥州支部、江刺支部)
- 八月 令和四年東北六県神道青年協議会
第九回役員会(リモート形式)
- 八月 事業頒布活動
(渡り温泉 ホテルさつき)
- 八月 令和四年神道青年全国協議会夏季
セミナー(神社本庁)
- 九月 「神職のための神宮研修会」
ウェブ研修会(リモート形式)
- 九月 東北六県神道青年協議会親睦事業
(岩手県神社庁 リモート形式)
- 九月 崇友会主催「米内紘正後援会」
(水沢グランドホテル)
- 九月 事業援助金巡回(宮古市下閉伊郡支
部、久慈支部、九戸支部、二戸支部)
- 十月 平安装束着装体験①
(奥州市立前沢中学校)
- 十月 平安装束着装体験②
(岩手大学附属中学校)
- 十月 令和四年東北六県神道青年協議会
第十回役員会(秋田県秋田市 協
同大町ビル リモート併設)
- 十月 山形県神道青年会創立五十周年記
念式典
(山形県山形市 ホテルキャッスル)
- 十月 沖繩本土復帰五十周年記念事業
沖繩戦全戦没者慰霊祭(沖繩県護
国神社)
- 十月 盛岡少年刑務所収獲感謝祭
(盛岡少年刑務所)
- 十月 衆議院議員藤原たかし国政報告会
(プラザイン水沢)
- 十一月 衆議院議員藤原たかしとの意見交
換会(花巻温泉 ホテル千秋閣)
- 十一月 神道青年全国協議会臨時総会
(神社本庁 リモート併設)
- 十一月 第六回役員会(日高神社)
- 十一月 令和四年東北六県神道青年協議会
顧問会
(福島県郡山市 ホテルブリーズ郡山)
- 十二月 令和四年東北六県神道青年協議会
第十一回役員会(リモート形式)
- 令和五年 平安装束体験③(奥州市立前沢中学校)
臨時総会(熊野神社)
会員新年会(大船渡温泉)
- 一月 令和五年東北六県神道青年協議会
第十二回役員会(リモート形式)
- 二月 第二十一回神道政治連盟時局対策
連絡会議(自民党本部)
- 二月 平安装束着装体験④
(関市立東山中学校)
- 三月 新祭祀舞研修会(宮城県神社庁)
- 三月 新祭祀舞研修会(宮城県神社庁)
- 三月 山形県神道青年会 創立五十周年
記念事業「未来へ繋ぐシンポジウム」
(山形県山形市 遊学館)
- 三月 神道青年全国協議会中央研修会
(徳島県徳島市 徳島グランヴィリ
オホテル)
- 三月 東北六県神道青年協議会東日本
大震災物故者慰霊祭
(宮城県石巻市 鹿島御児神社)
- 三月 神政連役員会、神政連県本部代議員会
(岩手県神社庁)
- 三月 金ヶ崎神社本殿遷座祭
(金ヶ崎神社)
- 三月 令和五年東北六県神道青年協議会
第十三回役員会(リモート形式)

発行所 岩手県神道青年会
住所 花巻市城内七二一八
鳥谷崎神社社務所内
電話 FAX ○一九八二二二〇三〇